



# 鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

「キリスト・イエスの僕、神の福音の  
ために選び出され、召されて使徒  
となったパウロから」

聖書(ローマ書 1章 1節)

牧師 河合裕志

イエスには12人の弟子がいた。使徒とも言われた。そしてここに少し遅れてイエスの弟子・使徒になった者がいた。それがパウロ。パウロは直接イエスに会ったことはない。イエスの事は話に聞いているだけ。そして聞く程にパウロの心は穏やかではなかった。

なぜ?①クリスチャン達は十字架につけられ殺された者をメシア(救世主)と信じていたから。犯罪人がなぜメシアなのか。デタラメも程々にしろ。②彼らはイエスが死んだあと復活して今も生きていたから。なんと馬鹿馬鹿しい。ふざけるな。

パウロは熱心なファリサイ派のユダヤ教徒としてこの偽りの新興宗教を許せないと思った。そこで彼はクリスチャン狩りを始める。これを捕縛しては大祭司のところに連行した。この迫害行動はイスラエル国内から始まったがそれでは飽き足りず外国にまで足を伸ばすことに。

こうしてシリアのダマスコに向かうことになる。そこにもクリスチャングループがいるとの情報を得たので。仲間の者達と迫害の息をはずませてダマスコ(今日のダマ

スカス)に急ぎ、ようやく前方に町の城壁が見えたあたりに来た時、「突然、天からの光が彼の周りを照らした。サウロは地に倒れ、『サウル、サウル、なぜ、私を迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。『主よ、あなたはどなたですか』と言うと、答えがあった。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである』(使徒言行録9章3~5節)。

サウロとかサウルというのはパウロの以前の名前。ここで彼はイエスの声に接するという体験をする。3年ぐらい前には死んでいる筈のイエスからの語りかけ。これにはパウロは大変に驚き、以降イエスの復活を信じる者となり、更にイエスの十字架はわが罪が赦されるための身代わりであることを悟るに至る。まさに180度の回心。そして今度は熱心なイエスの弟子、使徒、伝道者になってしまう。

パウロはこのローマ書(正式には「ローマの信徒への手紙」。コリントで紀元50年代に書かれた)の冒頭、「キリスト・イエスの僕(しもべ)」と記す。イエスとその弟子達を激しく嫌ったパウロは今は自分はイエスの僕です、と誠にしおらしい。イエスはわがご主人様、自分はその召使。人間変われば変わるもの。イエスの声がかかるかかからないかで。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時~7時

お折り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時